

## 河川事業の再評価概要書

( ) は、前回再評価時

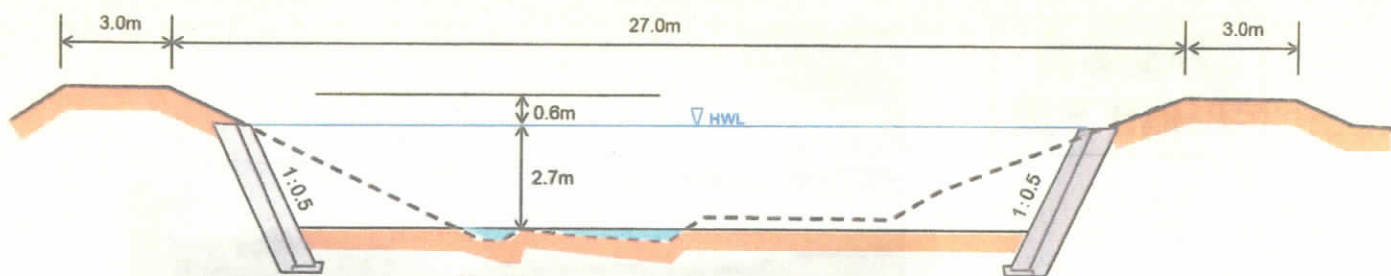
河川事業の再評価概要書			番 号	3
			事業主体	栃 木 県
事業名	安全な川づくり事業		事業所管課	県土整備部 河川課
路線・河川名	一級河川 熊川 <small>くまがわ</small>		事業箇所名	大田原市、那須塩原市 <small>おほたはらと、なすしおほらし</small>
事業区間	大田原市荒井地先～ 那須塩原市箕輪地先 <small>おほたはらしあらい、なすしおほらしみのわ</small>		事業延長	11,900m
平成19年度事業化			平成19年度用地着手	平成19年度工事着手
事業期間	H19 ～ H38	事業 進 捗 状 況	基準年次：【平成28年度末時点】	
[うち用地補償費]	[0.8億円]		[うち用地補償費]	[0.4億円]
全体事業費	37.0億円		既投資事業費	14.5億円 39%
事業概要				
<p>熊川<small>くまがわ</small>は、那須塩原市百村<small>なすしおほらしもむら</small>に源を発し、那須野が原をほぼ南東方向に流下し、大田原市荒井で蛇尾川と合流する流路延長27.6kmの一級河川である。流域内は、東北新幹線、東北本線、東北縦貫自動車道路、国道4号等の主要交通網が横断しており、栃木県北部の交通・産業経済上の重要な地域である。</p> <p>昭和36年～63年に河道改修が行われたものの、近年、那須塩原駅を中心とした市街地の拡大による開発が進み、洪水に対する安全度は低下の傾向にあり、平成10年8月の那須水害時には堤防が一部決壊して那須塩原駅周辺などが浸水し、交通機関や住民生活に大きな影響を及ぼした。このため、洪水に対する安全度を向上させ、浸水被害の軽減を目的として、河道断面の拡大を図る。</p>				
事業を巡る社会経済情勢の変化、事業計画の大幅な変化 等				
流域内において、大きな土地利用の変化はなし。				
事業の投資効果				
① 費用対効果分析結果				
		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】	
1) 事業全体	B/C=13.3	737.0億円	55.4億円	[L=11,900m 区間]
2) 残事業	B/C=20.2	571.6億円	28.2億円	[L=10,100m 区間]
② 事業の整備効果等				
整備を図ることにより、宅地や公共施設及び農地の浸水被害が解消される。				
事業の進捗状況等				
① 事業の進捗状況				
事業延長11,900mのうち、蛇尾川合流点から約1,770m及び学校橋周辺の約30mの整備が完了している。				
② 今後の事業進捗の見込み				
今後の事業については、計画的に整備が進められる見込みである。				
コスト削減等				
① コスト削減方策				
河川工事で発生した土砂は、他事業へ流用し、工事費の削減を図る。				
② 代替案立案等の可能性				
過年度事業(S36～S63)で大部分の用地は取得している。また、下流より順次整備を実施中である本計画が最適である。				
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。		

# 事業箇所(位置図、概要図)

位置図



標準断面図

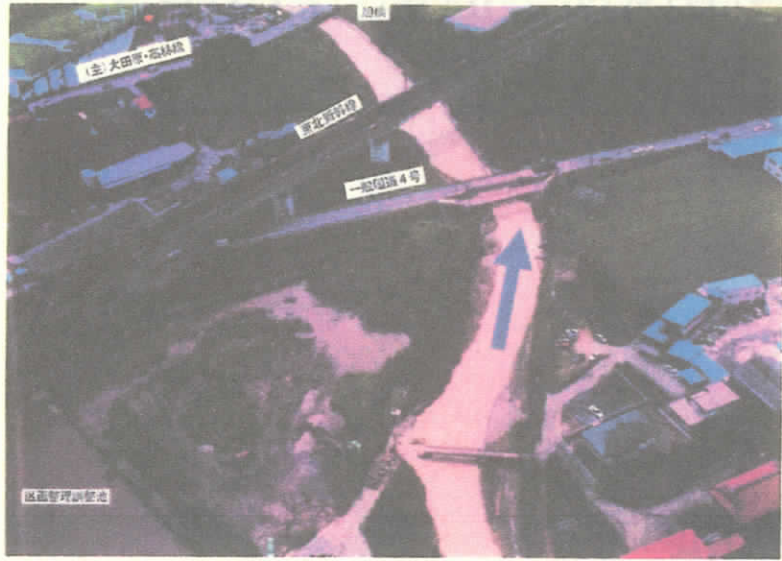


計画流量	60~190m <sup>3</sup> /s
現況流下能力	140~200m <sup>3</sup> /s

概要図



①出水状況



②改修前  
学校橋下流



③改修後  
学校橋下流

